

授業科目名	クリティカルケア看護特論Ⅱ <i>Advanced Studies in Critical Care Nursing II</i>		担当教員		
開講年次	1年前期	セメスター	1	時間数(単位数)	30(2)
必修選択	専攻領域必修	授業形態	講義	使用教室	
授業の目的	クリティカルケアを必要とする患者の生活行動や機能回復状況を把握し、高度な看護実践を導くための、主要系統別・状況別フィジカルアセスメントができる				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複雑かつ急激に変化する患者の状況をアセスメントする目的について理解する。</li> <li>2. クリティカルケアにおける主要系統別・状況別フィジカルアセスメントの内容と方法について理解する。</li> <li>3. Common Diseaseの緊急度・重症度を判断するためのフィジカルアセスメントについて理解する。</li> <li>4. 事例を通して、患者の生活行動や機能回復状況を判断し、高度な看護実践を見出すことができる。</li> </ol>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1回：クリティカルケアにおけるフィジカルアセスメントとは</li> <li>2回：脳神経系の基礎知識：構造/機能、障害、脳虚血、CBF/ CPP</li> <li>3回：脳神経系のフィジカルアセスメントの実際 意識状態、運動機能/反射、瞳孔の評価、バイタルサインの変化、髄膜刺激症状</li> <li>4回：呼吸器系の基礎知識：構造、呼吸調節、ガス交換、換気力学、血流均衡、肺内シャント</li> <li>5回：呼吸器系のフィジカルアセスメントの実際： 呼吸音、モニタリング（液ガス分析、EtCO<sub>2</sub>、人工呼吸器グラフィックモニター）</li> <li>6回：循環器系の基礎知識：構造/機能、刺激伝導系の異常</li> <li>7回：循環器系のフィジカルアセスメントの実際 心音、モニタリング（心電図、動脈圧、フロートラック、中心静脈圧、肺動脈圧）</li> <li>8回：代謝系の基礎知識：糖・蛋白質・脂質・ビリルビン代謝、ビタミン貯蔵、ホルモン作用</li> <li>9回：代謝系のフィジカルアセスメントの実際、機能の評価、栄養状態の評価</li> <li>10回：外傷患者の基礎知識：診断と治療について、ショックの病態</li> <li>11回：外傷患者のフィジカルアセスメントの実際、傷患者のPrimary Survey</li> <li>12回：Common Diseaseのフィジカルアセスメント（発熱、頭痛、胸痛、腹痛）の実際</li> <li>13回：事例演習①脳出血</li> <li>14回：事例演習②ACSによる心不全</li> <li>15回：事例演習③ARDS</li> </ol>				
学習方法	クリティカルケア特有の状況を、シミュレーター等を活用し学習する。				
オフィスアワー					
テキスト	Lynn S. Bickley : Bates' Guide to Physical Examination and History Taking (11 <sup>th</sup> ) Philadelphia. Lippincott Williams & Wilkins.2013 : 福井次矢, 井部俊子, 山内豊明日本語版監修, ベイツ診察法 第2版, 東京, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2015.				
参考文献	David L. Simel, Drummond Rennie : JAMA evidence The Rational Clinical Examination Evidence-Based Clinical Diagnosis. 2008 : 竹本毅訳 : JAMA 版 論理的診察の技術 エビデンスに基づく診断のノウハウ, 東京, 日経 BP 社, 2010.				
評価方法	授業・討議への参加度 (50%)、学習への取り組み、プレゼンテーション (50%)				